

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	21H04979	研究期間	令和3（2021）年度 ～令和7（2025）年度
研究課題名	マーケットデザインとその社会実装による社会科学の革新	研究代表者 （所属・職） <small>（令和5年3月現在）</small>	小島 武仁 （東京大学・大学院経済学研究科 （経済学部）・教授）

【令和5（2023）年度 中間評価結果】

評価		評価基準
○	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>（研究の概要）</p> <p>本研究は、ヒトやモノの最適な配分を実現するための理論の開発と、その実際への応用による社会問題の解決を目指すものである。例えば、待機児童が発生する一方で、空きのある保育所が出たり、遠隔地の保育所に預けざるを得なくなったりする問題が発生しているが、本研究は、可能な限り入所の希望をかなえ、手続きの公平性や透明性を担保するなどの条件を満たす新たなプロトコル（手順）を考案し、実際の行政に実装して、待機児童問題を解決することを目指している。そのほか、研修医のマッチングや電波オークションなど幅広い分野への展開が予定されている。</p>		
<p>（意見等）</p> <p>研究成果は質量ともにトップレベルである。隣接する離散数学や計算機科学、情報科学との関係における理論的な解明でも革新的な貢献につながると期待できる。社会実装に向けての研究は端緒についた段階にあるものの、企業連携の取組が進められるなど社会的課題の解決に向けて具体的成果を期待できる状況にあり、予想を超える進捗が見られる。急速に普及しつつある生成AIによって機械学習の倫理的・実践的課題に更なる注目が集まっており、今後、社会実装の観点からマッチングの応用例とAIの活用・評価との比較という面への具体的な貢献にも期待したい。</p> <p>学術研究員等の雇用を通じた若手研究者の育成については、今後の一層の進展と成果を期待する。</p>		